

大相撲、前半をわかせる小型力士の活躍

2019年に入って、小型力士の活躍が目覚ましく、幕の内前半の土俵を盛り上げている。
炎鵬(えんほう)と照強(てるつよし)の二人です。

炎鵬は平成6年10月18日生まれ。石川県金沢市出身で168cm、98キロ。宮城の部屋。一般人と同じような体格で幕内で活躍しています。得意技は左四つ・下手投げ。

技能賞:1回(2019年7月場所) 今話題の力士です。

照強 平成7年1月17日生まれ。兵庫県あわじ市出身。169cm、120キロ。伊勢ヶ濱部屋。得意技は右前ミツ・投げ。
新十両 平成二十九年一月場所 新入幕 平成三十一年三月場所 最高位 前頭九枚目



(C) 公益財団法人 日本相撲協会



(C) 公益財団法人 日本相撲協会

2018年1月場所後の時点では、どんぶり1杯から2杯しか食べられない。そのため、宮城野からは「もっと間食するなりして、体重を増やさないと、幕内は狙えない」と十両昇進会見の際に言われ、白鵬からも十両昇進祝賀会の際に「5月場所までに110kgに増やせ!」と命じられた。

化粧廻しは金沢学院大、ジュリアーノ銀座から1本ずつ。

相撲を取って怖いと思ったのは入門した頃に部屋の横綱である白鵬と相撲取った時だけであると、2019年の週刊誌の記事で豪語した。

軽量を補うためにスピードを活かして左差しを浅く取って拝むようにしつこく攻める相撲が得意である。

能天気で前向きな性格。

取組前の塩撒きで大量の塩を撒くことでも知られる。

2016年12月30日、伊勢ヶ濱部屋で関取衆らと43番の申し合いを終えると、伊勢ヶ濱が「まだ昇進のお祝いをしていなかったな」とぼそり。これが号令となり、約15分間にわたって照ノ富士や宝富士、安美錦の胸を借りるぶつかり稽古で息も絶え絶えとなった。関取だけが締められる白色の稽古まわしも砂まみれ。照強は「ありがたい。力に変えて頑張りたい」と感謝した。